

授業科目	* 看護過程論				単位	2		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11208J		
開講年次	2年	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-2 DP5-1			
担当教員	小田 日出子、隅田 由加里、金山 正子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>あらゆる健康レベル、あらゆる発達段階にある看護の対象者に対し、対象者のニーズを充足するための看護実践に必要な看護過程の基礎的知識と方法を学ぶ。授業は、講義及び事例(紙上患者)を用いた6~7名によるグループ学習活動を軸に展開する。</p> <p>実務家教員として、医療現場で培った各健康段階に応じた看護(救急、超急性期、急性期一周手術期含む、回復期、慢性期)に必要な基礎的知識・技術の活用を前提に、2年次前期の学生を対象に、「心不全」患者の事例を用いて、看護実践の基盤となる看護過程展開能力の育成を図る。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践の方法論である看護過程について、その展開(アセスメント・問題の明確化・計画立案・実施・評価)に必要な基礎知識を修得することができる。</li> <li>2. 科学的根拠に基づく看護(=EBN)を提供することの意義と必要性が理解でき、根拠に裏づけされた看護を実践しようとする姿勢を身につけている。</li> <li>3. 看護過程の基本的な考え方(問題解決的思考・クリティカルシンキング)を身につけ、看護アセスメント力を高めることができる。</li> <li>4. 看護過程における法的・倫理的課題を明らかにして述べることができる。</li> <li>5. 看護とは、看護の対象とは、患者中心の看護とは、看護者とは、を自らに問い続けることができる。</li> <li>6. 看護実践に必要な基礎的知識・技能を学修する機会として、授業(講義・グループワーク)に主体的・積極的に取り組むことができる。</li> <li>7. 対象者のニーズを満たす個別的な看護実践のための看護過程の一連のプロセスが展開できる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	50	0	25	15	10	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	50						50	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			25				25	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)					10		10	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)				15			15	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				



5	<p>看護診断過程-2(スクリーニングの実際) 事例(Aさん)の看護問題の明確化を目指して、グループ学習を展開する。(GW:小田 / 金山 / 隅田 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「11 の機能的健康パターン」に基づくデータベースへの情報の分類・整理と情報の分析(解釈・判断)</li> <li>・パターン間の関係性を考えながら、患者全体像を図式化する。</li> <li>・患者全体像の図式化を基に、全体像の概要を 1000 字程度に要約して記述する。</li> <li>・全体像をもとにフォーカスアセスメントすべき機能的健康パターンをいくつか絞り込む。</li> <li>・特定したパターンのフォーカスアセスメ</li> </ul>	<p>■グループワーク</p>	<p>[復習] 宿題:全体像の図式化の修正及び全体像の概要(1000 字程度)の記述に取り組む。 毎回のグループ学習活動の振り返り:振り返りシート記載。</p>	90 分
6	<p>看護診断過程-2(フォーカスアセスメント) アセスメントから看護問題の表明に至るプロセス(講義:小田日出子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーカスアセスメントに必要な情報の追加と収集</li> <li>・看護問題表記の方法</li> <li>・看護問題のタイプ</li> <li>・看護問題の優先順位の決定</li> <li>・問題リスト記載の方法</li> </ul> <p>全体像から得た手がかりを基に紙上患者の看護問題を推論(仮診断)する(GW:小田 / 金山 / 隅田 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体像をもとにフォーカスアセスメントすべき機能的健康パターンをいくつか絞り込む。</li> <li>・特定したパターンのフォーカスアセスメントに向けて必要な情報を収</li> </ul>	<p>■全体講義 ■グループワーク</p>	<p>[復習] 宿題:全体像の図式化の修正及び全体像の概要(1000 字程度)の記述に取り組む。 毎回のグループ学習活動の振り返り:振り返りシート記載。</p>	90 分
7	<p>看護診断過程-2 (フォーカスアセスメント)(GW:小田 / 金山 / 隅田 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体像をもとにフォーカスアセスメントすべき機能的健康パターンをいくつか絞り込む</li> <li>・特定したパターンのフォーカスアセスメントに向けて必要な情報を収集・追加する</li> <li>・1 つ以上の特定パターンをアセスメントし、問題の焦点を絞り込む</li> <li>・分析結果をもとに看護問題を導き出す</li> </ul>	<p>■グループワーク</p>	<p>[復習] 宿題:全体像の図式化の修正及び全体像の概要(1000 字程度)の記述に取り組む。 毎回のグループ学習活動の振り返り:振り返りシート記載。</p>	90 分
8	<p>看護診断過程-3(看護問題の明確化)(講義:小田日出子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護問題の推理・推論(仮診断)</li> <li>「気になる情報」から「疑わしい健康問題」へ</li> <li>・情報の分析(解釈・判断)/統合</li> <li>「疑わしい健康問題」から「看護問題」の特定へ</li> <li>・看護診断の概念</li> <li>・診断の定義・診断指標・関連/危険因子と症状・徴候</li> <li>・看護問題の記述と診断ラベル</li> <li>・共同問題という考え方</li> <li>・看護診断ハンドブックの活用方法</li> </ul> <p>看護診断過程(看護問題の明確化/看護診断)(GW:小田 / 金山 / 隅田 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 つ以上の特定したパターンの分析結果から、看護上</li> </ul>	<p>■全体講義 ■グループワーク</p>	<p>[予習] 「看護診断」について、テキストの該当部分を精読し、学習ノートを作成する</p> <p>[復習] グループ学習活動の振り返り:振り返りシート記載。 授業後の振り返りとして、自宅にて NAS 上にアップした看護過程論～おさらいテスト(2)・(3)～に取り組む。</p>	90 分 15-20 分
9	<p>看護診断過程-3(看護問題の明確化/看護診断)(GW:小田 / 金山 / 隅田 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 つ以上の特定したパターンの分析結果から、看護上の問題(看護診断)を導き出す。</li> </ul>	<p>■グループワーク</p>	<p>[復習] 授業後の振り返りとして、自宅にて「看護診断」について、テキストの該当部分を精読し、</p>	90 分

			学習ノートを作成する。	
10	看護診断過程-4（計画立案）（講義：小田日出子） ・目標と評価日の設定 ・看護介入計画の立案 ・観察計画(OP), ケア計画(CP), 指導/教育計画(EP) (GW:小田 / 金山 / 隅田) ・紙上患者について、特定した看護問題を解決する手立てとしての看護計画を立案する。	■全体講義 ■グループワーク	[予習] 「看護計画立案」について、テキストの該当部分を精読し、学習ノートを作成する。 [復習] 授業後の振り返りとして、自宅にて「看護計画立案」について、テキストの該当部分を精読し、学習ノートを作成する。	90分 90分
11	看護診断過程-5(実施・評価)（講義：小田日出子） ・看護介入実施のステップ ・看護実践評価の視点と評価指標 ・看護過程における法的・倫理的課題; 講義 (GW:小田 / 金山 / 隅田) ・紙上患者について、特定した看護問題を解決する手立ての1つとして、個別性のある援助計画を立案する。	■全体講義 ■グループワーク	[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。 授業後の振り返りとして、自宅にてNAS上にアップした看護過程論～おさらいテスト(4)・(5)～に取り組む。	10分 15-20分
12	学習成果の発表:「看護過程論学習成果発表会」に向けて、看護実践披露のための準備を整える。(GW:小田 / 金山 / 隅田)	■グループワーク	グループ単位での課題学習に取り組む。	90分
13	看護過程論;GW学習成果発表-1(GW:小田 / 金山 / 隅田) ・看護過程論GWの成果発表と振り返り ・グループ内/グループ間でのディスカッション ・自己及び他者評価	■学習成果発表 (各グループの看護実践を披露する) ■グループワーク	[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。	10分
14	看護過程論;GW学習成果発表-2(GW:小田 / 金山 / 隅田) ・看護過程論GWの成果発表と振り返り ・グループ内/グループ間でのディスカッション ・自己及び他者評価	■学習成果発表 (各グループの看護実践を披露する) ■グループワーク	[復習] グループ学習活動の振り返り: 振り返りシート記載。	90分
15	看護過程論;GW学習のまとめ(GW:小田 / 金山 / 隅田) ・看護過程論GWのまとめ ・個人学習記録の整理・提出	■グループワーク ■個人学習		
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	看護師の思考過程であり、看護実践の方法論でもある看護過程の基本を学ぶ授業です。授業では「うっ血心不全患者」の事例を用います。事前準備として提示した「個人学習課題」(主に看護形態機能学;循環器系の復習と疾病各論;うっ血性心不全に関する知識の整理)に取り組み、必要最低限の知識の準備をしたうえで授業に臨んでください。			
テキスト	<p>★テキストとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茂野香ほる他著:系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術1 第16版第4刷 (医学書院)</li> <li>・リンダ J.カルペニート=モイエ著、黒江ゆり子監訳: 看護診断ハンドブック 第11版 (医学書院)</li> </ul>			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>★参考図書として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロザリンド・アルファロ・ルフィーヴァ著、本郷久美子監訳(2012):「基本から学ぶ看護過程と看護診断第7版」(医学書院)</li> <li>・マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳(2009):「アセスメント覚書 ゴードン 機能的健康パターンと看護診断」(医学書院)</li> <li>・マージョリー・ゴードン、佐藤重美著(1998):「ゴードン博士のよくわかる機能的健康パターン—看護に役立つアセスメント指針」(照林社)</li> <li>・松田直樹ほか著(2019):「系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[3] 循環器(第15版)」(医</li> </ul>			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>毎回の授業概要、講義・グループワーク関係資料、必要な記録類等は、全て看護学科 kaname.net の「看護過程論」にアップロードしています。</p> <p>授業、グループワークの進行に沿って、各自、必要な準備を整えて授業に臨んでください。また、講義の終了後には、皆さんが自主的に学んだ知識を確認できるように、その都度、期間限定の「看護過程論～おさらい小テスト シリーズ(1)～(5)」を準備し、学んだ知識の振り返りができるようにしています。大いに活用してください。</p> <p>何より、看護実践に必要な基礎的知識・技能としての「看護</p>			
達成度評価に関するコメント	筆記試験(50%)、個人学習/課題レポート(25%)、GW 成果発表(15%)、および学習貢献度等(レポート外の提出物、授業参加態度)(10%)により総合的に評価する。			